スマートフォンから 楽々チケット印刷

スマサバ･プリント

取扱説明書

目次

安全にご使用いただくために

- **本製品を安全に正しくご使用いただくために、接続および設置を含めてご使用前に本取扱説明書（以後、本書とします）を必ずお読み下さい。**
- 本書はお読みになった後で、いつでも見られる所に保管してください。

警告

- 故障または煙が出たり、変な臭いや異音がするなどの異常が起きたときには、すぐに使用をやめてください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
- 本書で指示されている部分以外の分解や改造はしないでください。けがや火災、感電あるいは故障の原因となります。
- 雷が発生しているときにはすぐに使用をおやめください。また、本製品の設置およびケーブル類の取付け作業を行わないでください。感電の原因となります。
- 水などの液体がかかるおそれがある場所、湿気やほこりの多い場所には設置しないでください。火災や感電の原因となります。
- 本装置に異物や水や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）が入ったりしないよう、また濡らさないようにご注意ください。万一、内部にこれらの液体が入った場合は、まず本装置の電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 破損したり落としたりした場合は使用をやめてください。火災や感電の原因になります。
- ぬれた手で接続プラグの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 接続ケーブルを加工したり、傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。破損して、火災や感電の原因となります。
- 電源アダプタを使用する機種の場合は、付属がある場合、付属の電源アダプタまたは指定された物をお使いください。他の電源アダプタを使用すると火災や感電の原因となります。御使用の際は、指定の電源電圧を守り、電源アダプタの上にものをのせたり、かぶせたりしないでください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

- ぐらついた台や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。落ちてけがをしたり、故障により火災や感電の原因となります。
- 移動の際に金属やプラスチック部分に異常が発生した場合には電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となります。
- 製品の一部もしくは全体が、通常の使用の際に比べ、異常な発熱を伴う場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。故障や火災の原因となります。
- 接続ケーブルの上には重いものを載せないでください。また、熱器具に近付けないでください。ケーブルの被覆が破れ火災や感電の原因になります。
- 接続ケーブルを抜くときは、コードの部分を引っ張らないでください。断線または短絡して、火災や感電の原因となります。
- 本製品を長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 本製品および本製品を接続する機器のグランド（接地）をしっかり行ってください。漏洩電流や静電気などで、感電や故障の原因となります。
- 本製品は、病院や医療機器などの人命に関わる設備での使用、人命に関わる機器との併用はしないでください。高度な信頼性を必要とする設備や機器に影響を与えることも考えられます。

記号について

⚠ 警告	⚠ 注意
この内容を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的傷害のみの発生が想定される内容、データなどの情報損失を起こす可能性が想定される内容を示しています。

1　製品紹介

スマサバ･プリントは、業務用レシートプリンタを用いて、連番券やクーポンなどを簡単に印刷作成するシステムです。

行列時に渡す順番待ち･整理券、物品預かり時の引換券、イベントでの食事券やクーポン券など、日時や番号を入れた券や、臨時で発行するチケットなどの印刷に最適です。

スマートフォンから操作ができるので、さまざまな場所に持ち出して、手軽に各種券の印刷作成を行うことが可能です。

スマサバ･プリントは、Micro SmaSvr [マイクロスマサバ]に Web アプリとして内蔵されており、プログラムのインストール無しでご利用いただけます。

インターネットが利用できる最近のブラウザが動作する環境であれば、スマートフォンやタブレット PC、ノート PC、デスクトップ PC など、機種を選ばずに、多くのデバイスでそのまま利用できます。

有線 LAN で PC やノート PC と接続できるほか、Wi-Fi 無線 LAN アクセスポイントを利用することで、iPhone, iPad, iPod Touch や Android 端末などスマートデバイスから直接操作ができます。[Wi-Fi 接続]

iPod Touch など、携帯通信機能を持たない低価格な端末でも同様に利用できるので、コストを抑えたシステム運用が可能です。

左からレシートプリンタ、iPod touch、Wi-Fi アクセスポイント、Micro SmaSvr

2　機器接続の準備

2.1　固定アドレス

Micro SmaSvr は、設定された固定アドレスにより動作します。

2.2　Wi-Fi 無線 LAN アクセスポイント セット製品の場合

Wi-Fi 無線 LAN アクセスポイントが同梱されたセット製品では、Micro SmaSvr との接続設定がアクセスポイントにあらかじめなされているので、電源とケーブルを接続することでそのままご利用いただけます。

Wi-Fi 無線 LAN アクセスポイントの基本 IP は 192.168.001.XXX のセグメントが初期設定されています。

Wi-Fi を接続する際のアクセスポイント名(SSID)には、「MicroSmaSvr」が設定されています。

スマートフォンや PC の設定の Wi-Fi 設定からネットワーク選択で「MicroSmaSvr」 を選択してください。

2.3　既設の Wi-Fi 無線 LAN 環境に Micro SmaSvr を接続する

初回起動時に、Micro SmaSvr を既にご使用中のローカル IP 環境に合わせます。

現在ご使用のネットワークが、192.168.1.xxで運用されている場合、

Micro SmaSvr は出荷時の基本アドレスとして、複数の基本アドレスから選択を行うことができます。

出荷時の基本アドレスは、192.168.0.95, 192.168.1.95, 192.168.10.95, 192.168.100.95, 192.168.1.195 がご利用できます。

基本アドレスがご使用中の IP 環境と同じセグメントでない場合、PC 等を固定アドレスに設定し Micro SmaSvr と接続してください。

例: ローカル環境が、192.168.1.XX (IP Mask:255.255.255.0)で、ローカルネットワークに 192.168.1.95 に該当する機器がない場合。

Micro SmaSvr に電源を接続後、ボタンを 3 回プッシュし起動する。

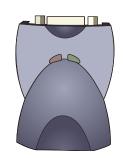
ブラウザを起動し、URL に 192.168.1.95 を入力する。

2.4 最初の起動時の設定 － 基本 IP を設定する

ネットワークによる機器接続を行う場合、お互いの IP アドレスを通信できる状態に合わせる必要があります。

2.4.1 本体プッシュスイッチから、基本 IP を設定する

Micro SmaSvr 電源投入直後、LED は以下の状態となります。

1. 赤と緑の LED が一度点滅（パターーン）します。
2. 赤と緑の両 LED が一旦消灯します。
3. 約 3 秒後、緑 LED が点灯し、動作開始（起動）となります。

電源を接続した後、上記 2 の動作開始まで間に、ネットワークケーブル接続用モジュラージャックの横にある小さな黒いボタン（プッシュスイッチ）を、下記の回数押すことで基本 IP の変更ができます。

ボタンを押す回数

0～2 回: 変更なし

3 回: 固定 IP 192.168.000.095 を選択・保存し、起動する。

4 回: 固定 IP 192.168.001.095 を選択・保存し、起動する。

5 回: 固定 IP 192.168.010.095 を選択・保存し、起動する。

6 回: 固定 IP 192.168.100.095 を選択・保存し、起動する。

7 回: 固定 IP 192.168.001.195(*)を選択・保存し、起動する。

8 回～: 変更なし

(*)7 回押した際の基本 IP 設定値は、192.168.001.195 は出荷時の設定であり、ハードウェア設定にて変更可能です。

※ボタンは、最後に押してから約 3 秒後に動作開始となります。

※設定中に押した回数がわからなくなった場合、8 回以上押すことで変更はキャンセルされます。

※本設定は以降の起動について内部保存されます。

※起動後、ハードウェア設定を行うことで、すべての IP アドレスへの変更ができます。

3 操作説明

3.1 実行方法

Micro SmaSvr に接続したスマートフォンや PC のブラウザを実行します。

ブラウザの URL バーに、Micro SmaSvr の固定 IP を入力します。

3.2 メインメニュー

ブラウザ起動すると、メインメニューが表示されます。

メインメニューからは連番券印刷もしくは設定画面の選択ができます。

画面表示サイズは固定されていますので、拡大縮小表示はできません。

Safari 画面で実行した場合、起動後は URL バーが見えない位置に移動しますが、上下スクロールすることでバーを表示することができます。(上下が低い画面ではバーが表示される場合があります。)

3.3 終了方法

スマサバ・プリントは Web アプリですので、ブラウザを終了することで、終了します。

iOS の場合、画面下のボタンを押すことで、ブラウザは終了します。(一般的な APP 操作と同じです。)

3.3.1　ホーム画面に実行アイコンを追加

iOS や Android のブラウザでは、ブラウザ機能の「ホーム画面に追加」を行うことで、ホーム画面に **SmaSvr アイコン**が作成され、最初の URL の打ち込みも不要となり、簡単にプログラムの実行を行うことができます。

本マニュアルでは、基本的にホーム画面から実行した際の画面をもとに説明します。

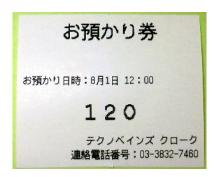
iOS のホーム画面に作成された SmaSvr アイコンから実行を開始した場合、Safari ブラウザの上部に表示される URL バーと下段のコントロールバーの表示が消え、専用アプリケーションとして画面を有効に利用することができます。

Safari による起動

ホーム画面アイコンから起動

4　印刷する券について

4.1　印刷ブロック

スマサバ･プリントでは、レシートプリンタを用いて様々な券の発行を行います。

4.2　印刷用紙の構成

印刷する 1 枚の券には、以下のような 4 つのブロックで構成されます。

お預かり券　スタンプ
お預かり日時:8月1日 12:00　ヘッダ
120　主印刷
テクノベインズ クローク
連絡電話番号：03-3832-7460　フッタ

スマサバ･プリントではブロックごとに印刷内容を指定します。

各ブロックは予め印刷する書式が基本書式として設定されており、例えばスタンプは倍角中央合わせ、ヘッダは左寄せなどの書式で印字されます。

印刷書式は各ブロックで指定することができます。

基本書式は、設定画面の「印刷基本書式設定」で設定を変更することができます。

4.3 印刷各ブロック

4.3.1 主印刷

主たる印刷である連番数値、テキストを印刷します。

連番券以外の用途には、連番指定の番号増分に0を指定すると、主印刷に連番数値を印刷しないことができます。主印刷 テキストは印字されます。(書式なし)

4.3.2 ヘッダ

主印刷に先行して印刷されるブロック。

スタンプはすでに印刷されていますので、ヘッダが実際の印刷開始部分となります。

改行指定を行うことで、複数行の印字が可能です。

4.3.3 フッタ

主印刷の後ろから用紙の終端までに印刷されるブロック。

改行指定を行うことで、複数行の印字が可能です。

4.3.4 スタンプ

用紙カットされた際、同時に次の用紙の先頭部分に印刷されます。

スマサバ・プリントのスタンプブロックは、プリンタのロゴ機能を用いずに、ソフトウェアで作成していますので、毎回の用途ごとに指定変更することができます。

スタンプはカッター余白を利用して印刷されるため、スタンプ行の高さには制限があります。

「用紙カットとスタンプについて」をご参照ください。

4.3.5 スタンプの自動再印刷機能

印刷作業中にスタンプ印刷内容が変更された場合、スタンプの自動再印刷機能が実行されます。

すでに印字されているスタンプ部分が古い場合、新たなスタンプが印刷され、破棄(カット)することができます。

スマサバ・プリントでは用紙交換を検出できないため、用紙交換後は、一度印刷を行うか、用紙カット機能によりスタンプを再度印刷してください。

4.4　用紙カットとスタンプについて

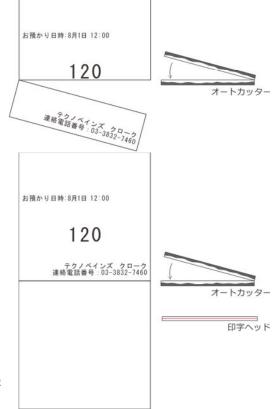
レシートプリンタの構造上、文字を印刷する印字ヘッドの上に用紙カッターがあります。

ヘッドとカッターは異なるユニットで動作するために、離れて配置されています。

印字を行った直後に用紙カットを行うと、カッターは印字ヘッドよりも上にあるために、印字した用紙が途中で切られてしまいます。

印字最終位置の直後で用紙をカットするためには、印字最終位置がカッターを通過するまで紙送りを行ない、その後にカットを行います。

続けて印字を行うと、すでに紙送りが行なわれているために、用紙の先頭に何行分かの空白行ができてしまいます。

カット時の紙送りによる空白部分の無駄を少なくするためには、紙を送る際に次の用紙のスタンプとして印刷を行うことで無駄になる部分を利用します。ただし、余白範囲を超えてスタンプを印字した場合、はみ出した途中部分でカットされます。

用紙の先頭部の空白が開いてもよい場合、特にスタンプを用いなくとも印字は可能です。

※プリンタハードウェアの仕様により、ヘッドとカッターの位置は異なります。

※紙送りとカットは印刷基本書式設定のスタンプ設定により変更できますが、カットの際の紙送り量を小さくすると、巻き込み・紙詰まりの原因となりますので、特にご注意ください。

5　印刷してみよう

初めて利用する場合は、あらかじめ設定画面からハードウェア初期設定を行ってください。

5.1　印刷見本

では、実際に下記の券を印字してみましょう。

5.2　連番券印刷にトライ

メインメニューから連番券印刷を実行すると右の画面が表示されます。

上記、連番券は以下のブロックに分けることができます。

連番券印刷画面は上記ブロック順に設定することができます。

5.3　印刷内容の文字入力

スタンプ、ヘッダなどのテキストボックスをタッチ(クリック)すると文字の入力ができます。

写真は iPod touch での操作例です。

フリック入力

QWERTY キーボードタイプ

PC でご利用の場合、キーボードから直接入力ができます。

「**クリア**」ボタンは、入力された内容を消すことができます。

「**コマンド**」ボタンはマクロコマンドを登録できます。

「**キーワード**」ボタンはユーザー登録したキーワードからリスト選択入力できます。

コマンド、キーワードについては後述を参照してください。

5.4　スタンプを登録

スタンプのテキストボックスに「お預かり券」と入力します。

印刷基本書式設定でスタンプは倍角、中央寄せに指定されていますので、この入力だけで用紙の先頭中央に、大きな文字で　お預かり券　が印刷されます。

※プリンタの内蔵ビットマップフォントで印字されるため、フォント種別の選択はありません。

5.5　試し印刷を行う

入力の途中ですが、試し印刷を行ってみます。

「**単票印刷**」ボタンまたは「**印刷実行**」ボタンで印刷を行ってみます。

印刷が正しくできない場合、初期設定等を確認してください。

5.6　試し印刷結果

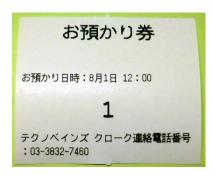
スタンプだけを入力した状態で、「**単票印刷**」ボタンまたは「**印刷実行**」ボタンで印刷を行うと、下記のような券が発行できます。

初期状態では、連番指定が1～1なので、連番数値として「1」が表示されます。

連番指定した後でも、単票印刷を使用することで１組の印刷を試し印刷できます。

5.7　ヘッダとフッタを追加する

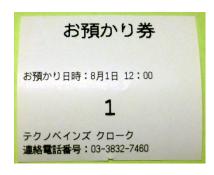
スタンプに続いて、ヘッダのテキストボックスに「お預かり日時:8 月 1 日 12:00」を入力します。

また、フッタのテキストボックスに「テクノベインズ クローク連絡電話番号:03-3832-7460」を入力します。

さあ、印刷してみましょう。

印刷できましたが、フッタが変ですね。

スペースで位置合わせをしてもいいのですが、ここではちょっとおまじない。

先ほどのフッタの改行したい位置に「$Ar」と入力してください。

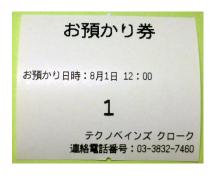
「テクノベインズ クローク$Ar 連絡電話番号:03-3832-7460」

試しに印刷します。

うまく改行しましたね。

あとは右寄せです。

先ほどのフッタの先頭に「$AR」を追加します。

大文字小文字に注意して入力してください。

「$AR テクノベインズ クローク$Ar 連絡電話番号:03-3832-7460」

完成です。

5.8　マクロコマンドの追加

＄Ar や$AR を追加しましたが、これはマクロコマンドといいます。

文字列中にマクロコマンドを入れることで、プリンタ制御コードを指定することができます。

ハードウェア設定で指定されたプリンタ種別に合わせたプリンタ制御コードが用いられます。

マクロコマンドは＄に続く2 文字(半角英文字)で指定します。

$Ar は CrLf（改行コード）、$AR は右寄せコマンドをプリンタに送ります。

先ほど印字例では、「お預かり日時:8 月 1 日 12:00」と固定した日時で入力しました。

イベント開催など、決められた日時の場合はこれで良いですが、お預かり券などでは印刷した日時を入れたい場合がありますが、その場合にもマクロコマンドを使用します。

先ほど印字例を印字日時に変更するには、以下のようなマクロコマンドを用います。

「お預かり日時:$DM $DN」　　　お預かり日時:08 月 01 日 12 時 34 分

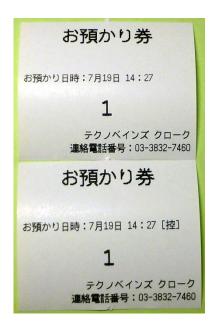
「お預かり日時:$Dq 月$Dr 日 $Dh:Dn」　お預かり日時:8 月 1 日 12:34

預かり票などを発行する場合、1枚目を正本、2枚目以降を副本とすることがあります。

条件文字列マクロ$QF を用いることで、連番指定の枚数/番号が1枚目に合わせた文字列の印刷ができます。

初期設定の場合、シート1枚目以外に ［控］ を印刷できます。

印刷文字列は設定の条件出力文字列設定で指定します。

「お預かり日時:$Dq 月$Dr 日 $Dh:$Dn $QF」

「コマンド」ボタンを用いることで、簡単にマクロコマンドの入力を行うことができます。

その他のマクロコマンドについては、 「コマンドボタン」「マクロコマンド」を参照ください。

5.9　連番数値の指定

印刷を行う際には、印刷する連番数値を設定します。

iOS の場合、数値入力をタッチすると数値 PAD が表示され数値の入力ができます。

5.9.1　開始番号

連番の開始番号を指定します。（最大9桁:0～999,999,999）

5.9.2　終了番号

連番の終了番号を指定します。（最大9桁:0～999,999,999）

開始番号が終了番号より大きい場合、減小カウントで印字します。

5.9.3　番号増分

カウントの増分（減算）を指定します。

5.9.4　枚数/番号

１つの番号に対する発行枚数を指定します。

マクロコマンド条件出力文字列を使用することで、１枚目と1枚目以外で[控]などの区別印字を加えることが可能です。

5.9.5　用紙カット　カット無し

チェックすると、カット無しで高速に印字します。

渡す際にはさみなどでカットする場合などに適します。

5.9.6　カット実行

カットを手動で行います。

スタンプブロックの改行量が初期値より短く設定された場合、紙の巻き込みや紙詰まりの原因となるため、初期値を変更する場合、ご注意ください。

5.9.7　印刷繰返し

同じ内容での印刷繰り返し数を1～10 回で設定します。

5.9.8　単票印刷　キー入力

単票印刷で、本選択がない場合、1組印刷後次の印刷を待ちます。

単票印刷時にキー入力にチェックをすると、単票印刷画面の中央付近にテキスト入力ボックスが表示されます。

キー入力選択の場合、**単票印刷前**に確認画面を表示します。

ここで入力された値は、マクロコマンド（$HK）に渡されます。（1番号ごとに毎回入力を行います。）

キー入力内容自体についてのチェックは行われません。

また入力が行われない場合でも辞表印刷が行え、入力値は空文字列となります。

本キー入力選択は、連続印刷時には無視されます。

利用例として、バーコード入りの申請書や招待状などをバーコードスキャナでスキャンし、管理された受付番号を表示する場合などに利用できます。

マクロコマンドをバーコード印刷に渡すことで、新たなバーコードを印刷することもできます。

5.11 印刷

印刷を行うには、「**印刷実行**」ボタンまたは「**単票印刷**」ボタンで印刷を実行します。

5.11.1 「**印刷実行**」ボタン

「**印刷実行**」ボタンは、設定した連番を一度に発行します。

5.11.2 「**単票印刷**」ボタン

「**単票印刷**」ボタンは１組（枚数/番号単位)ごとに印刷を行います。

単票印刷の場合、右のような画面が表示され、1 組印刷毎に印刷状態（枚数）の表示と「**次票印刷**」の実行ボタンが表示されます。

すべて印刷が終了すると、最後に「**印刷終了**」ボタンが表示されます。

「**中断**」ボタンにより、単票印刷は途中で中断できます。

5.11.3 連続印刷中の印字中断について

印字実行ボタンで大量の印刷を実行したのち、印字中に本体プッシュスイッチを押すと、スマサバ･プリントの連続印字出力を中断できます。

スマサバ･プリントは印字データを小さなプリンタコマンドで送信するため、大きな印字バッファを持ったレシートプリンタを使用する場合、印字開始後すぐに印字データがプリンタバッファに送り終わるため、（すでにプリンタの印字バッファに入ったデータの取り消しは）プッシュスイッチによる中断はできません。

プリンタバッファに入ったデータを中断するには、プリンタの電源を切る必要があります。

5.12 テンプレート登録機能

作成した印字書式はテンプレートとして最大10種類保存できます。

テンプレートは、Micro SmaSvr 内部のフラッシュメモリに保存されますので、異なるスマートデバイスからの接続でも同じ内容が利用できます。

本画面から、印刷書式のテンプレートへの保存と呼び出しを行います。

5.12.1 テンプレート保存

テンプレート登録一覧リストの保存する項目をタッチ(クリック)するか、ドロップダウンで保存番号を保存先を選択します。

既に登録されている項目を選択した場合、テンプレートタイトルにその番号と名称が表示されます。

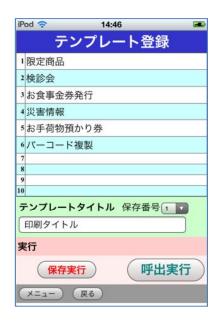
(そのまま登録すると、新しい内容で登録されます。)

内容を示すテンプレートタイトルを指定して「**保存実行**」ボタンでテンプレート保存を行います。

5.12.2 テンプレート呼び出し

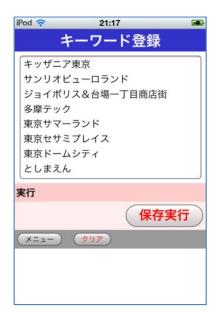
登録された内容を利用して印刷ができます。

テンプレート登録一覧リストをタッチ(クリック)するか、ドロップダウンで保存番号を選択します。

「**呼出実行**」ボタンを押すことで、選択されているテンプレート条件が連番印刷画面に反映されます。

6　キーワード登録機能

よく使う単語を Micro SmaSvr のフラッシュメモリに登録できます。（最大200キーワード）

6.1　キーワードを登録する。

登録は直接手入力もしくは、メールや Web などの画面からコピー＆ペーストを利用し、入力枠に書き込み、キーワードを登録します。

6.2　キーワードを利用する。

キーワードリストから登録キーワードを選択し、登録ボタンでキーワードを入力します。

7 「コマンド」 ボタン － マクロコマンド挿入

マクロコマンドは大変重要な機能ですが、たくさんのコマンドを覚えたり、現場でマニュアルを参照したりすることは大変です。

マクロコマンド挿入機能を利用することで、簡単にマクロコマンドを追加することができます。

マクロコマンド挿入は、スタンプ、ヘッダ、フッタや初期設定のコマンド入力を行う場面の、テキストボックス入力下にある「コマンド」ボタンを押すことで、マクロコマンド挿入画面が表示できます。

マクロコマンド挿入画面には入力途中の文字列が表示されます。

コマンドを挿入したい位置を最初にタッチ(クリック)すると、直接のキー入力や、コマンドボタンを押すことでコマンドを挿入することができます。

背景がグレーの帯にあるボタンで最初にマクロ機能を選択し、グレーの帯の下のコマンドボタンでマクロコマンドを入力します。

編集が終了したら「**登録**」ボタンで編集結果を反映します。

編集を取りやめる場合、「**戻る**」ボタンで挿入画面を終了します。

7.1　マクロコマンド挿入　ー　日時

ボタン名	挿入コマンド	機能	例
年月日	$DD	年月日を入れて日付を印字	2012 年 08 月 01 日
月日	$DM	月日を入れて日付を印字	08 月 01 日
時分秒	$DT	時分秒を入れて時刻を印字	12 時 34 分 56 秒
時分	$DN	時分を入れて時刻を印字	12 時 34 分
年	$Dy	西暦年の下 2 桁を印字	12
平成	$Dg	平成元号年の下 2 桁を印字	24
月	$Dm	月の下 2 桁を印字	08
日	$Dd	日の下 2 桁を印字	01
24 時	$Dh	時(24 時制)の下 2 桁を印字	12
12 時	$Da	時(12 時制)を印字(1桁 or 2桁)	0
PM	$Dp	AM, PM を印字	PM
分	$Dn	分の下 2 桁を印字	34
秒	$Ds	秒の下 2 桁を印字	56

7.2 マクロコマンド挿入 ー 修飾

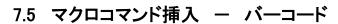
ボタン名	挿入コマンド	機能
左揃	$AL	左揃え
中揃	$AC	中央揃え
右揃	$AR	右揃え
倍角	$AW	倍角
倍角終	$Aw	倍角解除
強調	$AE	強調印字
強調終	$Ae	強調印字解除
全解除	$AX	標準設定: 左揃え, 倍角解除, 強調印字解除

7.3 マクロコマンド挿入 — 文字

ボタン名	挿入コマンド	機能
CrLf	$Ar	改行 Cr(キャリッジリターン), Lf(ラインフィード)
Cr	$Ac	Cr(キャリッジリターン:$0d)
Lf	$Al	Lf(ラインフィード:$0a)
$	$Ad	$文字を出力 ($24)
HEX	$	16進数コードデータ用 先頭$に続く数値はキー入力
入力内容印刷	$HK	単票印刷でキー入力指定の際、単票印刷画面のキー入力値を反映

7.4　マクロコマンド挿入　－　ハード

ボタン名	挿入コマンド	機能
プリンタ 初期化	$HI	プリンタ初期化コマンドの発行
1枚目	$QF	条件出力文字列を印字 シート1枚目：　空白 シート1枚目以外：［控］
ドロワ	$HD	プリンタ DKD コネクタ接続のドロワオープンコマンド発行
カット スタンプ	$HS	プリンタ用紙カットとスタンプ印刷 （用紙カット チェックボックス条件の反映）
強制 カット	$HC	プリンタ用紙カットとスタンプ印刷（強制実行）

7.5　マクロコマンド挿入　ー　バーコード

ボタン名	挿入コマンド	機能
低 1～高 6	$B1～$B6	バーコード高さ指定 1(低い)～6(高い)
狭 1～広 3	$B7～$B9	バーコード 細線幅指定　1:2dot, 2:3dot, 3:4dot
HRI 有	$BH	HRI (バーコード可読文字)あり
HRI 無	$Bh	HRI (バーコード可読文字)なし
Jan13	$BA	JAN13 / EAN13
Jan8	$BE	JAN8 / EAN8
Code39	$BC	Code39
Codabar	$BN	CODABAR / NW7
コード終端	$BT	バーコード種別直後から開始されるバーコードデータ文字列の終了を示すコード

7.6 マクロコマンド挿入 ー カウンタ

ボタン名	挿入コマンド	機能
連番	$N	生成連番カウンタ
ユーザ	$T	ユーザー設定カウンタ
ハード	$S	印刷カウンタ（内部連番）
ページ	$P	印刷毎のページ番号カウンタ
シート	$X	シート番号カウンタ
コピー	$G	印刷繰返しカウンタ

	ボタン名	挿入コマンド	機能
半角	ゼロサプレス	B	カウンタ値
	1～9	1～9	N 桁の固定桁数表示　先行 0 パディング
全角	ゼロサプレス	Z	カウンタ値を全角変換して表示
	1～9	a～i	N 桁の固定桁数を全角変換して表示 先行 0 パディング a=1 桁、i=9 桁

8　マクロコマンド

スマサバ・プリント内のマクロコマンド挿入画面のコマンドボタンは、優先度が低いなどすべての機能が登録されているものではありません。

マクロコマンド全般については、以下を参照ください。

8.1　マクロコマンド　スタンプ指定の際の注意点

日時や条件文字列などは、印字に合わせて印字する内容が動的に変化します。

スタンプブロックは前回印刷時にあらかじめ印刷が終わっていますので、変化する文字列を含めると最初の（前回最後に印字された）印字では正しく印字できない場合があります。

スタンプには、動的に変化するマクロコマンドは含めないでください。

8.2　マクロコマンド　－　１６進数入力

１６進数でコード入力を行うことで、すべてのバイトコードをシリアルポートに出力できます。

$に続く2文字(0-9、a-f)で１６進数を指定します。[１０以上は英小文字]

例：

ESC コード	$1b
Ascii‘H’	$48
半角カタカナ　’ｱ’	$b1
数値 255	$ff

8.3　マクロコマンド　－　文字修飾指定、特殊文字列指定

文字修飾指定については、A から始まる以下のようなマクロコマンドがあります。

$AL	左揃え
$AC	中央揃え
$AR	右揃え
$AW	倍角
$Aw	倍角解除
$AE	強調印字
$Ae	強調印字解除
$AX	標準設定: 左揃え, 倍角解除, 強調印字解除
$Ar	改行指定　Cr(キャリッジリターン), Lf(ラインフィード)コード
$Ac	Cr(キャリッジリターン:$0d)
$Al	Lf(ラインフィード:$0a)
$Ad	$文字

書式以外にもカウンタ表示やバーコードの指定などもこのマクロコマンドで行います。

すべてのマクロコマンドについては、「マクロコマンド一覧」を参照ください。

8.4　マクロコマンド － 現在日時

日時指定については、D から始まる以下のようなマクロコマンドがあります。

$DD	年月日を入れて日付を印字	2012 年 08 月 01 日
$DM	月日を入れて日付を印字	08 月 01 日
$Dx	西暦年を印字	2012
$Dy	西暦年の下 2 桁を印字	12
$Dg	平成元号年の下 2 桁を印字	24
$Dm	月の下 2 桁を印字	08
$Dq	月を印字(1桁 or 2桁)	8
$Dd	日の下 2 桁を印字	01
$Dr	日を印字(1桁 or 2桁)	1
$DT	時分秒を入れて時刻を印字	12 時 34 分 56 秒
$DN	時分を入れて時刻を印字	12 時 34 分
$Dh	時(24 時制)の下 2 桁を印字	12
$Di	時(24 時制)を印字(1桁 or 2桁)	12
$Da	時(12 時制)を印字(1桁 or 2桁)	0
$Dp	AM, PM を印字	PM
$Dn	分の下 2 桁を印字	34
$Do	分を印字(1桁 or 2桁)	34
$Ds	秒の下 2 桁を印字	56
$Du	秒を印字(1桁 or 2桁)	56

※印字する日時は、印刷を行った際のブラウザが返す日時が印字されます。

8.5 マクロコマンド － 条件文字列

預かり票などを発行する場合、1枚目を正本、2枚目以降を副本とすることがあります。

条件文字列マクロ$QF を用いることで、連番指定の枚数/番号に合わせた文字列の印刷ができます。

印刷文字列は設定の条件出力文字列設定で指定します。

シート1枚目とシート1枚目以外で異なる文字列が指定できます。

初期値では下記が設定されます。

$QF	条件出力文字列を印字	シート1枚目： 空白 シート1枚目以外： [控]

8.6 マクロコマンド － ハードウェア制御

接続したプリンタなどのハードウェアを制御するマクロコマンドです。

$HI	プリンタ初期化コマンドの発行
$HC	プリンタ用紙強制カット
$HS	プリンタ用紙カット(用紙カット チェックボックス条件の反映)
$HD	プリンタ DKD コネクタ接続のドロワオープンコマンド発行
$HK	単票印刷でキー入力指定の際、単票印刷画面のキー入力値を反映

8.7　マクロコマンド　－　バーコード出力

バーコードの印刷を行います。

バーコード値には、マクロコマンド（日時、カウンタなど）を組み合わせて使用可能です。

バーコード印刷はプリンタ機能に依存するため、使用するプリンタの制限をご確認ください。

8.7.1　バーコード出力方法

バーコードを印刷する場合、以下の順にコマンドを発行する必要があります。

1. バーコード出力条件を設定
2. バーコード種別を選択
3. バーコード値を出力（スタート、ストップコードを含む:機種依存性あり）
4. バーコード終了コードを出力

8.7.2　バーコード出力条件

$BH	HRI (バーコード可読文字)あり
$Bh	HRI (バーコード可読文字)なし
$B1～$B6	バーコード高さ指定 $B1(低い)～$B6(高い)
$B7～$B9	バーコード 細線幅指定　7:2dot, 8:3dot, 9:4dot

8.7.3　バーコード種別

$BA	JAN13 / EAN13
$BE	JAN8 / EAN8
$BN	CODABAR / NW7
$BC	Code39

※プリンタ機種により、バーコードのスタート・ストップや Check Digit のコード付加が必要

8.7.4　バーコード終了コード

$BT	バーコード種別直後から開始されるバーコードデータ文字列の終了を示すコード

例　「BHB2$B7$BNA123456B$BT」CODABAR　Start:A Stop:B 値:123456

8.8 マクロコマンド － カウンタ出力

カウンタ出力は各種数値を書式化して出力します。

カウンタ出力コマンドは出力する出力ソースと出力書式を組み合わせます。

8.8.1 カウンタ出力ソース

$G	印刷繰返しカウンタ
$N	生成連番カウンタ
$P	印刷毎のページ番号カウンタ
$S	印刷カウンタ（内部連番）
$T	ユーザー設定カウンタ
$X	シート番号カウンタ

8.8.2 出力書式

B	カウンタ値
Z	カウンタ値を全角変換して表示
1～9	N 桁の固定桁数表示　先行 0 パディング
a～i	N 桁の固定桁数を全角変換して表示　先行 0 パディング a=1 桁、i=9 桁

マクロコマンドは、カウンタ出力ソースと出力書式を組み合わせます。

例　$N5　連番カウンタを5ケタ固定で出力

9　初期設定

9.1　印刷基本書式設定

印刷基本書式設定は、印刷の開始・終了および各印刷ブロックの印刷前後に書式コマンドを発行するための設定です。

ここでの設定により、各ブロックの基本書式や印字内容を設定できます。

コマンドは最大 240 バイト

9.1.1　印刷前処理

印刷開始時に1回呼び出されます。

プリンタや接続する機器の初期化を行います。

9.1.2　スタンプ前・後処理

スタンプ印字の前後に発行するコマンドです。

用紙カットはここで行われます。

巻き込みや紙詰まりを防ぐ為に、スタンプ印刷のカットと用紙送りはプリンタの性能に合わせる必要があります。

9.1.3　ヘッダ前・後処理

ヘッダ印刷の前後に発行するコマンドです。

印字停止した状態から最初に印字されるブロックとなります。

9.1.4　主印刷 連番条件前・後処理

連番数字を印刷する前後に発行するコマンドです。

主印刷テキストも設定されている場合、

- 主印刷 連番条件前
- 連番数字
- 主印刷テキスト
- 主印刷 連番条件後

で実行されます。

番号増分=0 で連番数字を印刷しない場合、主印刷テキストには書式設定は行われません。

書式を設定する場合、主印刷テキスト文字列内で書式設定を行ってください。

9.1.5　フッタ前・後処理

フッタ印刷の前後に発行するコマンドです。

フッタブロックの最後で、次に来るスタンプブロックとの間のカット空間を作成します。

9.1.6　印刷後処理

印刷終了時に発行するコマンドです。

他の印刷に影響が出ないように、標準印字状態に戻します。

9.2 条件出力文字列設定

預かり票などを発行する場合、1枚目を正本、2枚目以降を副本とすることがあります。

条件文字列マクロ$QF を用いることで、連番指定の枚数/番号に合わせた文字列の印刷ができます。

印刷文字列は設定の条件出力文字列設定で指定します。

シート1枚目とシート1枚目以外で異なる文字列が指定できます。

控えや複製、正・副など表示できます。

日時や条件文字列などは、印字に合わせて印字する内容が動的に変化します。

スタンプブロックは前回印刷時にあらかじめ印刷が終わっていますので、変化する文字列を含めると最初の（前回最後に印字された）印字では正しく印字できない場合があります。

スタンプには、動的に変化するマクロコマンドは含めないでください。

9.3　ハードウェア初期設定

ハードウェアの初期設定を行います。
電源投入時、プッシュスイッチにより基本 IP アドレスの設定を変更することができます。
本設定では自由な IP アドレスを設定することができます。

9.3.1　基本 IP 設定

本装置の実行 IP アドレスを設定します。

IP アドレスとサブネットを指定します。

設定途中で IP を変更すると接続が切断されますので、本設定は次回の電源起動後から有効になります。

9.3.2　初期設定用ボタン選択 IP アドレス

電源投入時の IP アドレス選択において、プッシュボタンを7回押した際に選択されるアドレスを設定します。

３～６回は固定されているため変更できません。

9.3.3　シリアルポートボーレート

シリアルポートに接続する機器のボーレートを設定します。

ボーレート以外のパラメータは変更できません。

8Bit、Parity なし、ハードウェアハンドシェーク

9.3.4　プリンタ種別

接続するプリンタの種別を設定します。

9.3.5　印刷カウント（ハードカウンタ）

１枚印刷するごとに更新される、内部印刷カウンタの値を表示します。

このカウンタはリセットできません。

印刷カウントは印刷シリアル番号としてマクロコマンドから印刷に使用することができます。

9.3.6　カウンタ

ユーザーカウンタとして利用できます。

マクロコマンドでカウンタを表示するごとにカウントアップされます。

この設定画面の「カウントリセット」ボタンにより、カウント値を初期値にリセットできます。

設定は、「設定実行」ボタンを押すことで内部不揮発性メモリ「EEPROM」に記録されます。

タイトル	スマサバ・プリント スマートフォンから　楽々チケット印刷
初版発効日	2012 年 07 月 18 日
編集管理番号	7
版数	第 1.00 版
版管理日	2012 年 7 月 24 日
著作者	Naoya
管理ファイル	スマサバ・プリント_取扱説明書 j.docx
発行元	テクノベインズ株式会社 東京都文京区湯島 3-31-4 〒113-0034　ツナシマ第1ビル 電話:03-3832-7460 http://www.technoveins.co.jp